明海大学大学院応用言語学研究科主催
浦安市教育委員会後援

第 15 回応用言語学セミナー

テーマ：語りの世界

今回のテーマは、「語りの世界」としました。

「語り」というと、今日においては、まず芸能の世界と関連付けて考えられることが多いかと思うのですが、そこだけにはとどまりません。日本におけるそれを考えるだけでも、そこには「語り」の発生から、その広がり、さらには様々な歴史的展開が含まれていきますので、その領域はとても広くに亘っていて、概観するのも簡単なことではありません。

さらに視野を日本に限らず世界に目を向けると、これはもうどこから取りついていいのか途方に暮れてしまうほど、広さと厚さを持った世界です。ですが、改めて見直してみると、私たちの今の日常世界にもつながりを意識できる事柄だけに、直接研究に携わる方だけにとどまることなく、多くの人に興味を持ってもらえる「世界」であると思います。

今回の講演では、題目をわが研究科の主として取り扱っている研究領域（日本語、英米語、中国語）の中から取り上げました。テーマの大きさからみて限られた領域となるのに違いありませんが、それでもこのような「世界」があったのかと思っていただけるような興味深い演題から構成することができました。

そのそれぞれから「語られる」言葉そのものがその地の文化と密接に結び合ってそこにある、あるいはそこにあったことが見て取れます。そのような中から、普遍的な原理が引き出していけるのでしょうか。あるいは多様性を改めて思い致すことになるのでしょうか。さまざまな観点から考察を深めていきたいと思います。

日時：2012 年 12 月 15 日(土)
場所：明海大学浦安キャンパス
講義棟 2 階 2102 教室
〒279－8550 千葉県浦安市明海 1 丁目

◆ ご挨拶

応用言語学セミナーは、今回で 15 回目を迎えます。

第一回を本研究科の設置された 1998 年に開いておりますので、15 回目を迎えた本年は本研究科の開設 15 周年にもあたっています。

このセミナーは本学の大学院応用言語学研究科を広く、また多くの人に知ってもらうために始めた活動です。開催に当たっては、講演者に本研究科の教員だけではなく、毎回のテーマに合わせて外部講師の方をお招きしております。また、本研究科の院生も毎回準備段階から参加し、当日は教員と連携して会場運営を行っています。

回を重ねるごとに、広い領域の方々から期待を寄せられるようになり、その回が終わるごとに、次回に向けての準備を始めることが常となり、わが研究科の年間行事の中でも大きなウエイトを占める活動となっています。

本学の応用言語研究科には、1「言語教育」、2「言語行動」、3「言語文化」の三つのコースが置かれています。

これまでの近三回の開催を見ますと、第 12 回（2009 年）「ことばと心」、第 13 回（2010 年）「言語習得」、第 14 回（2011 年）「言語の多様性と普遍性」と続けてきています。

前回までの開催テーマを見て、今回は「言語文化」の領域で開催することにしました。

今回のテーマですが、「語りの世界」といたしました。本研究科の主たる研究対象である日本語、英語、中国語にわたる領域の中から構成いたしましたが、プログラムを見て、興味ある講演の組み合わせができたかと考えております。

新たな興味への広がりへと繋げる楽しみをぜひ味わってください。

明海大学応用言語学研究科長・外国語学部長

遊佐　昇

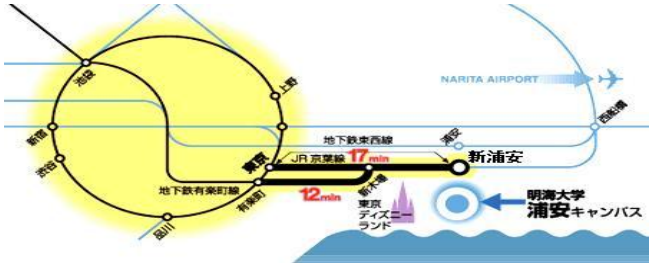
-明海大学応用言語学セミナーのホームページ-

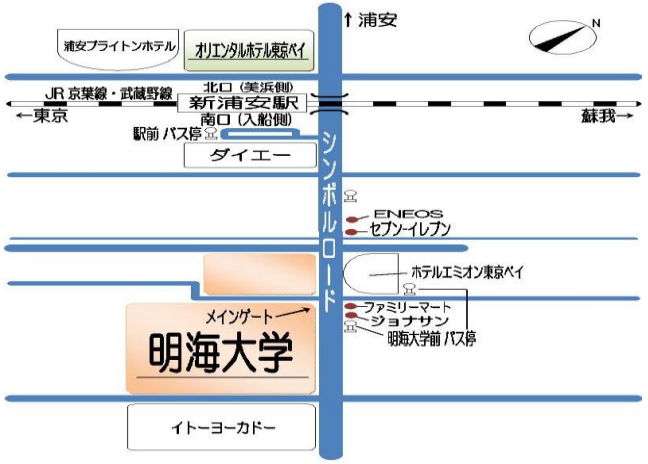
明海大学　第 15 回応用言語学セミナー　検索

Meikai Applied Linguistics Seminar (MALS)

◆ 交通手段

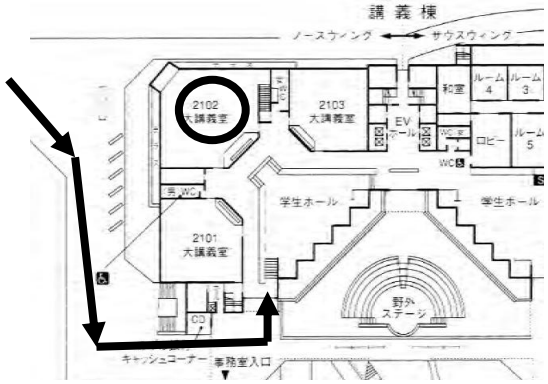
東京駅より JR 京葉線・武蔵野線快速で約 17 分、新浦安駅下車。南口（入船側、ダイエー方向）からシンボルロードを通って、徒歩約 10 分。または駅南口ロータリーのバス停から、③⑪⑯⑰⑱番系統のいずれかのバスで約 5 分「明海大学前」にて下車。運賃 140 円。





◆ キャンパス略図

会場：講義棟 1 階　2102 教室



明海大学 MEIKAI UNIVERSITY

プログラム

2012年12月15日(土)
講演　2102教室

9：30　受付開始

10：00　開会　　**総合司会：山下早代子**

10：00-10：05　挨拶

遊佐昇（明海大学大学院応用言語学研究科長・外国語学部長）

午前司会：桜井隆

10：05 - 11：05

遊佐昇（明海大学 教授）

「道教と語りの世界」

中国での講唱文芸の発展は、仏教、道教の中国社会への浸透と深い関連を持つ。敦煌文献の調査を通じて、その存在が確かめられていった「俗講」儀式の存在。その具体的内容については、仏教側から研究が進められてきているが、道教の俗講に関する資料も敦煌文献の中にあった。その解読を通して道教の「語り」の世界について見ていく。

11：10 - 12：10

加藤徹（明治大学 教授）

「京劇の言語」

京劇は中国の伝統的な楽劇である。京劇の音声表現は外国人には異質に感じられるが、演劇の本質である「2.5次元の再生芸術」というコンセプトから京劇の演劇言語を分析すると、合理的な大系をなしていることがわかる。京劇界の役者が代々語り継いできたことわざや、具体的な京劇作品の音声表現の実例をもとに、京劇芸術の背景にある中国人の美意識と世界観を考察する。

12：10 - 13：10　＜昼休み＞

午後　前半司会：尾崎恵子

13：10 - 14：10

新島尚子（特定非営利活動法人日本語検定委員会 主任研究員）

「伝える言葉、伝わる言葉　～語りの効用とその応用～」

音声表現に於いて、言葉は声により伝えられる。高低、緩急、強弱、遠近、濃淡、寒暖、色、…などで表情を添える。そして聴き手を刺激し、様々な感情を引き出していく。相手から「伝わる言葉」が発信されると、「聴きたい」の輪が広がる。より豊かな表現をする為に、より豊かな表情が生まれ、相乗効果をもたらす。語りとコミュニケーションスキルとの関わりは切っても切れないものといえる。

14：15 - 15：15

ジェシー・グラス（明海大学 教授）

“The Chronicles 1854-1859: Uncovering a Mock Oral Epic Poem from Carroll Country, Maryland.”

Abraham Lincoln was assassinated in April, 1865. When news of the President's death reached Westminster, Maryland on April 14th, John Wilkes Booth and the other conspirators were still on the run. It was then that the newspaper editor Joseph Shaw (1826--1865) had his presses destroyed and was run out of Westminster. He returned one week later to be murdered by six men who were then brought to trial and were found innocent. The story seemed straight forward enough until Glass began to search the newspaper files of the Historical Society of Carroll County and uncovered a link between Shaw, the men who murdered him, and the Know-Nothing Party of 1854.　　*通訳：小林裕子（明海大学講師）

午後　後半司会：佐々木文彦

15：25 - 16：25

清水眞澄（学習院大学 非常勤講師）

「ウタ語りの世界– 中世の語り物から– 」

語り物に取り込まれたウタは、豊饒な世界を聴衆にもたらしてきた。本報告では、『平家物語』『太平記』などの軍記物語に取られた和歌や今様、説教節「さんせう太夫」に取り込まれた「鳥追い歌」を取り上げて、ウタが物語の内と外を往還して享受される様相をとらえ、語り物の音声表現を機能の面から考察する。

16：30 - 17：30

岩下哲典（明海大学 教授）

「幕末の武家と庶民、その語りの世界ーペリー来航前後の社会と言説」

ペリーの来航はオランダによって１年前から予告されていた。その内容はどのようなものだったのか？来航後「太平のねむけをさます上喜撰」の狂歌が人口に膾炙したが、それはどんな層が受容したのか？また、ペリー艦隊から白旗の使い方を教えられた書簡をもらったとする噂が流れたが、どんな意味があったのか？これらから幕末社会の語りの世界の一端を明らかにしたい。

閉会　挨拶：西山佑司（明海大学副学長）

18：00 - 20：00

＜懇親会＞　場所：ホテルエミオン東京ベイ

参加ご希望の方は、お手数ですが12月7日（金）までに電子メール、ＦＡＸまたは葉書で、以下の①～⑤を明記の上、お申込み下さい。

①住所 ②氏名(ふりがな) ③電話(FAX)番号
④Eメールアドレス ⑤懇親会参加の可・否

お問い合わせ：明海大学応用言語学セミナー運営委員会
TEL：047-355-5120 FAX：047-350-5504
Email:gsalseminar@meikai.ac.jp